

青少年まちづくり市民会議発足の経緯・組織

青少年まちづくり市民会議発足までの経緯

昭和30年代から「多治見市青少年健全育成市民会議」が、総務庁の「青少年健全育成国民運動」の動きを受けていましたが、実質機能はしていませんでした。

時代が変わり、平成5年、この青少年健全育成の流れをまちづくりの視点にして行うため「多治見市青少年まちづくり市民会議」として、「市民会議」が変わることになりました。これには将来、地域と家庭、学校の三者が連携するためには、青少年育成が要となることが予想されていました。

まず、12名任命した青少年育成推進員を19名に増員し、月1回の推進員会を強固にしました。全小学校区に「青少年まちづくり市民会議」を組織することを目標に、地域での説明会も行いました。

しかし、学校と地域の連携をまちづくりといっても、地域に密着している活動を行っている団体(婦人会・青年団)はありませんでした。市全体で機能しているのは自治会だけで、当時の区長会にその依頼を行いました。

平成6年から、市から各区に青少年まちづくり市民会議の組織化のために交付金を支給しました。当時の課題は、全小学校区に校区青少年まちづくり市民会議を発足することでした。



校区青少年まちづくり市民会議の発足

平成6年、県の指定を受けて、モデル校区として精華校区青少年まちづくり市民会議が発足しました。その後、平成8年までにすべての小学校区で「校区青少年まちづくり市民会議」が発足しました。

現在、13小学校区の「校区青少年まちづくり市民会議」は、それぞれ規約をもうけ、会長をはじめとした組織をつくっています。これは、当初の自治組織とは別の組織で、各地域の現状にあわせた活動を続けています。

連携組織も校区によってさまざまですが、公民館・児童センターなど多大な協力をいただいています。校区の主な行事は、6月に行う「わたしの主張 多治見市大会」の校区代表者の選考も兼ねた「校区主張大会」を中心に、様々な地域行事を交付金などの範囲で行っています。

今後さらなる青少年健全育成を推進していきたいと考えておりますので、皆様方のご理解ご協力の程をお願いいたします。

